

1990年に公開され、大ヒットした映画「プリティ・ウーマン」のなかで、新米娼婦役のジュリア・ロバーツが、ハリウッドの超高級ホテルのペントハウスのバスルームでこっそりデンタルフロスを使うシーンがありました。

大富豪役のリチャード・ギアが麻薬と勘違いして怒鳴りますが、彼女が隠したのはフロスと分かり、彼はジュリアを見直します。米国では歯の手入れが、自己管理や将来への希望の象徴と考えられているようです。

その米国には、「フロス・オア・ダイ」という言葉もあり、30年前からフロスや歯間ブラシが常識になっていたわけです。その点、日本では、

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

歯周病でリスク高まる

まだまだ歯ブラシが歯の手入れの主役のようです。

私自身も数年前から歯間ブ

ラシを使うようになって、口内の状態が改善しており、効果を実感しています。日本で

はあまり知られていませんが、実は歯周病はがんも増やします。

歯周病や歯の欠損と食道がんの関係を調査した米ハーバード大の大規模な研究があり

ます。なお、食道がんはアルコールで増えるがんの代表で、5年生存率は40%にとどまるなど、酒好きの私にとっても非常に気になるがんです。

同大グループは、女性の看護師5万人と男性の医療従事者10万人を20年以上追跡しました。その結果、歯周病も歯の欠損もないグループに比べ、歯周病はないが、歯の欠損

年齢や追跡期間、糖尿病の有無などの因子も考慮して解析した結果、歯周病は食道がんのリスクを全体で43%上昇させると結論づけています。

12万2千人の口腔（こごうくろ）洗浄サンプルのDNAを分析し、口内の細菌の種類と食道がんの発生頻度を調べた別の研究によると、歯周病の原因となる細菌が見つかった人で食道がんが多いことが示されました。

逆に、特定の口腔内細菌が食道がんのリスクを低下させることもわかりました。

腸内細菌への感心が高まっています。善玉「口内細菌」を増やすべく、お手入れを欠かさないようにしましょう。
(東京大学病院准教授)